

平成26年度

# 授業改善推進プラン【中学校】

- ①平成26年度北区立中学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②平成26年度第1～3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③平成26年度第2学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)結果の分析(様式3)
- ④指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式4)

東京都北区立王子桜中学校

平成26年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	区の平均正答率と校内平均正答率を比較すると、2年は上回っているが、1、3年は下回っている。また3学年とも全国平均正答率に届かない数値であった。特に1年の読書・聞く能力が低かった。
社会	区及び全国平均正答率と比較した場合、2年生は区及び全国を上回る平均点であったが、3年生は全国、1年生は区及び全国の平均正答率より低かった。特に基礎上の活用問題に強く一層の基礎・基本の定着を図る必要がある。
数学	定着が不十分な面があり、特に数量や図形などについての知識・理解の定着に課題がある。目標値を上回る項目も多い。また学年が上がるごとに学力差が大きくなり、二分化の傾向がある。
理科	各学年とも関心意欲と科学的な思考に課題が見られる。
英語	

本校の教育目標

- [自主]  
自ら考え正しく判断し行動する人
- [創造]  
先人に学び、未来の文化を創る人
- [飛翔]  
視野を広く、高き理想を目指す人

本校が生徒に育成したい力

1. 基礎基本の定着を図りながら、課題発見能力や課題解決能力を育成する。
2. 二学期制の中で新しい学びを探り、生徒一人一人にきめ細やかな教育を推進することで、学力の向上を図る。
3. 朝読書や新聞タイムを実施し、生徒の読み解く力を身に付けさせ、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養う。
4. 北区の小中一貫教育を推進し、小中のつながりと積み重ねを意識した指導を進め、高い自己肯定感を育てる。

学力向上にかかわる経営方針

教育先進都市北区の教育理念である「北区学校ファミリー構想」に基づき、地域や幼稚園・小学校・中学校が連携し、小中一貫教育を通して基礎・基本的な学力を身に付け、将来にわたって役に立つ「確かな学力」を育む教育を推進する。

校内における学力向上推進体制

平成24年度～26年度の北区教育委員会研究指定校として、「自分らしい生き方を実現していく幼小中のつながり」をテーマに掲げ、8つの教科・領域の分科会で授業研究や指導法の研究を推進する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
二学期制の特色を生かし、授業時数を確保し、ゆとりある授業展開を図る。小人数授業やT・Tを推進し、個に応じた細やかな教育を推進していく。また教育指導員によるサポートにより、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境をつくり、明るく楽しい学校づくりを推進する。	「ノーチャイムによる学校生活」を通し、自ら考え正しく判断する自主性・主体性を育て、全教育活動の中で発揮させる。また、生徒の興味・関心・意欲を高める教材を開発し、基礎・基本の定着や自力解決型の授業など、工夫を図る。	幼小中一貫の王子桜中サブファミリーの研究の3年目として、これまでの研修の集大成を図る。さらに今年度の本発表に向けて、各教科で幼小中の接続を重視した授業研究やNIEを取り入れた授業の研究を進める。	教科ごとに、年度当初に年間指導計画・評価規準を作成し、それに基づき、きめ細かく生徒を評価し、評定していく。また、考査問題への観点の明記など、保護者・生徒へのわかりやすさに配慮する。	地域や企業の協力を得て、第1学年の職場訪問や第2学年の職場体験学習を実施する中で、勤労観や職業観を高めていく。また、町会・自治会との地域防災の実施や学校支援ボランティアの協力を得て、社会性豊かな生徒の育成を図る。

平成26年度 第1学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立王子桜中学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
目標値、北区の平均正答率ともに1, 8ポイントほど下回っている。とりわけ話の内容を聞き取る力が大きく劣っている。また、各クラスの平均点を見ると3クラスで平均をかなり上回っているのだが、2クラスが大きく下回っている。上位と下位の成績の差が大きいという	漢字の読み書き、文法語句の知識、説明文の読み取り、話し合いとメモの読み比べなどが目標値、北区の平均正答率を下回っている。中でも話の内容を聞き取る力が大幅に下回っている。いかに聞き取りながら自分の考えを持つ習慣がついていないかがわかる。	クラスによって差があるということはやはり普段の話の聞き方や友人先生の発言を聞き取る姿勢ができていないということである。短い発言であってもきちんと聞き取ること、また漢字も読み書きなど基本ができていない。かろうじて文書き作品の読み取りと作文が平
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
地理的分野に関する出題はすべて目標値を下回り、また歴史的分野においても「近代」以外は目標値を下回った。小学校6年生の学習内容の定着度は高いようだが、その他の内容については十分定着しなかったようである。	「社会的事象への関心・意欲・態度」が前年度より10ポイントほど下がり、目標値も下回った。またその他の観点についてはも前年度をいずれも5ポイント以上下がり、全体的に社会科学学習についての関心が低く、理解が十分でないようである。	前年度に比べて、目標値を下回っているのがほとんどである。改善のためにはまず、生徒の社会科に対する関心・意欲を高めることが必要であり、その上で知識・理解を深めていくことが望ましいと思われる。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的に目標値と同等の項目が多い。しかし、小数・分数の計算、単位量当たりの大きさと平均、百分率、比と比例・反比例については目標値を下回る結果となった。小数や分数などの数について、十分に定着していないようである。また、同一問題を対象とする平均正答率に関して昨年度の結果から下回る結果と	関心・意欲・態度、見方・考え方の観点では、目標値から大きく上回っている。数学的な技能、知識・理解の観点では目標値と同等の結果ではあるが、昨年度の平均正答率と比較すると、3～5ポイント下回っている。表現力に関しても目標値を下回っている。	全体的に数学的な見方・考え方が身についている。しかし、小数・分数の計算や百分率、平均など、整数よりも細かい数の扱いが定着していないため、学習する際に計算問題等で復習していく必要がある。比例・反比例についても既習事項を確認しながら、中学数学へ発展させていく。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
目標値の平均正答率に対して下回っており区平均の結果であった。内容を見ると「植物のつくりやはたらき」、「大地のつくりと変化」など2分野の内容が目標値から大きく下回っている。	すべての観点において目標値を達成されていない。特に自然事象についての知識・理解において約4ポイント下回っており十分な理解がなされていなかったまま積み残しがある生徒いることがうかがえる。	目標値、前年度区平均と比べると全観点が大きく下回っており、今後改善を図らなければならない。特に知識、理解の値が低いことより、小テストや前時の振り返りを増やし基礎の定着をさせていく。

平成26年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
昨年度同様、漢字問題での正答率が低い。特に書く問題では4問のうち3問が目標値を下回っている。反対に読み取りの力は昨年度よりも大きく伸びており、説明文の内容を読み取る問題ではすべての問題が目標値、全国正答率を大幅に上回っている。	言語についての知識・理解・技能に関しては、区の平均正答率を0. 2ポイント上回ったものの、全国平均正答率と比べると5. 9ポイントも低い。他の観点はその数値も区や全国の値を上回っており、特に関心・意欲、話す・聞く能力、読む能力は評価が高かった。	内容、観点どちらからも漢字力のなさが課題であることがわかってくる。小学校の頃からの練習不足により、読み書きの基礎ができていない。それに対して読み取りの力は伸びているので、今後もいろいろな種類の文章を読ませながら更に力を伸ばしていきたい。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体の正答率は、全国及び区の平均を上回った。地理的分野では、4問中2問が全国平均を下回ったが、残りの2問地球の姿や北アメリカは全国平均を大きく上回っている。歴史的分野では、3問中2問が全国平均を上回ったが、下回った1問は区平均も下回った。	全国平均と比べると知識・理解では1. 9ポイント上回ったが、関心・意欲は0. 5、思考・表現0. 2、技能では0. 2ポイント下回っている。特に関心・意欲は、区平均を0. 5ポイント下回っており、如何に関心・意欲を持たせることができるかが課題と言える。	全体では、区・全国平均を上回っているが、観点別正答率の関心・意欲は下回っている。今後の課題としては、知識・理解を深めながら表現力や技能を身に付けさせながら、最大の課題である関心を持たせ、意欲が湧いてくるような工夫をした授業展開を行う。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
正負の数の四則混合計算、分数を含む1次方程式は反比例の式を選ぶ問題、反比例のグラフ、比例のグラフ、グラフの傾きから式を求める問題、回転体の見取り図、球の体積、有効数字、ヒストグラム階級の幅を読む問題について正答率が目標値を下回った。	比例・反比例についての数学的知識や式・グラフの変換、表現する力が目標値に対して正答率が下回っている。図形や資料の散らばりと代表値の問題でも知識・理解が目標値に対してして正答率が下回っている。	計算処理の精度がよくない。比例・反比例、資料の散らばりと代表値についても数量や図形などについての知識・理解の観点で定着していない。問題演習を多く取り入れ、学習した内容の定着を図る必要がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎的な知識が定着していない部分がある。特に、「大地の成り立ちと変化」に関する知識が不足している。 実験で繰り返し扱った気体の性質、物質の状態変化や凸レンズと焦点の関係に関しては、区の目標値と全	知識が定着していない部分に関しては、単元ごとに小用テストを行い、知識の定着を図っていく。1、2年生の総復習として年度末に問題演習を行う。 実験で行った操作、観察して自ら発見したことは、よくできていた。今後も実験を積極的に取り入れていく。	小テストをこまめに行い、学習の定着度を測りたい。実生活に基づいた実験を取り入れる。科学は身近なものであると実感できるような教材を活用していく。教材に関しては、先輩の先生方に相談したり、文献から引用したりして教材の幅を広げていく。
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
特に「リスニング」、「語形・語法の知識理解」、「様々な英文の読み取り」、「単語の並べかえによる英作文」に関しては区の平均を上回っている。文型練習を繰り返し実施し、ペアワーク等コミュニケーション活動の時間を確保してきた成果と思われる。	全ての観点で区、全国平均を上回っているが、「表現の能力」がほかの観点に比べて正答率が低い。さらに学習内容を定着させるために、学習への意欲を高め、「書く」「話す」指導に力を入れていく必要がある。	内容別では「長文の読み取り」が区の平均を下回っているが、観点別正答率では「理解の能力」は平均を超えている。授業の中で長文を読む機会をつくる必要がある。また、「表現の能力」を定着させるために活動内容の工夫や時間の確保が課題である。

平成26年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
話し合いの内容を聞き取る問題では、話の内容を聞き取り、資料を駆使して、自分の考えを、話すことができるという能力が目標値より、11.4%も高く、力をつけていることがわかる。しかし、小学生からの漢字の学力不足・同音異義語の習得不足・文学の読み取りに、課題を残している。	聞き取り力・文章の内容を読み取る学力があり、言語事項の漢字の書き取り・読み取りに、課題を残している。敬語・文法・類義語・対義語は、よく理解している。文章の読解力は、対象により、成績の差が大きい。	朗読の音源に対する集中力があり、さらに自分の考えを持ち、文章で、表現する能力がある。言語事項における漢字力には、課題がある。文学的な文章の登場人物の心情を、読み取る力よりも、手紙文のような事務的な文章を読み取る力のほうが大きい。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的に区平均を上回ったが、全国平均は下回った。地理的分野は4項目のうち3項目が区平均を上回ったが、歴史的分野は3項目のうち1項目しか区平均を上回ることができなかった。歴史的分野は昨年度は全項目区平均未満であり、少しは改善されてきている。	関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能の3観点は、区および全国平均を下回った。知識・理解は、区平均を上回ったが、全国平均には及ばなかった。昨年度は、全項目平均を上回っており、歴史分野への関心・意欲の低さが懸念される。	地理的分野への学習は、意欲的に取り組んできたが、歴史的分野の学習への意欲が不十分である。歴史用語や漢字に対する抵抗感が見られ、受け身な取り組みとなってしまっている。歴史の流れと重要な出来事を整理させて、関心を高めて取り組ませるように
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
教科の正答率としては目標値を上回り、区や全国平均正答率を越える結果であったが、基礎問題の正答率は高いが、活用の力が低く、課題がある。内容面では証明問題や応用問題を苦手とする傾向がある。	数学的な技能と数量や図形などについての知識や理解は全国平均や目標値を上回っているが、数学への関心・意欲・態度はほぼ同等である。数学的な見方や考え方については下回っている。学力差が大きくなり、個人差が反映していることも考えられる。	日常的に反復練習を取り入れてきたことで、計算の復習、式の計算、1次関数、確率などの項目については理解が深まってきたと思われる。課題解決に向き合う姿勢を更に深め、考える力をいかに伸ばし、定着させていくかが課題である。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
化学変化、電流と磁界、天気が目標値を上回った。物質の成り立ち、動物分野が目標値かそれ以下である。苦手意識の強いところを重点的に指導した成果はあるが、苦手意識があまりないと思われる内容に対して取り組みが弱かったことがわかる。	意欲関心と科学的な思考に課題が見られる。また、技能と知識理解は目標を上回った。	日頃の授業で興味関心を大事にしながら、課題解決学習をしていくことが必要である。自分の思考を人の意見を聞きながら深めていく取り組みを続けていきたい。問題演習は、どの分野も同等に行う必要がある。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全国平均正答率と比較すると、基礎、活用ともに8～9%上回っている。領域別に見ても7～10%上回っており、日ごろの授業がある程度学力の向上に結びついていることが感じられる。	いずれの観点でも目標値を8～10%上回っている。最も高いのが理解の能力であるが、最も期待値を上回っているのは、10、5%上回る表現の能力である。表現力を高めることを目標に授業をしてきたことが成果に表れていると考える。	リスニング能力の高さや表現の能力の高さは、なるべく英語で授業を行ってきたことと各単元で表現活動をゴールに設定してきたことが深く関わっていると考えられる。今後はさらに英語でディスカッションできるくらいの力を付けられるように指導していく。

平成26年度第2学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)結果の分析〔悉皆〕(様式3)

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
2, 3番の漢字問題は比較的良くできていたと思う。普段からよく出題される基本的なものだったからだろう。誤答が多かったのは4番の主語と述語が適切に対応するように表現を変える問題で、中途半端な形で終えている者が多かった。8番の敬語に直す問題も誤答が多く、文の中で言葉適切に使うことが苦手だということが分かった	文法の授業は週に1時間ずつ行っているが、なかなか知識が定着しないのが現状である。今回の結果を見ると、テキスト上の知識だけではなく、実際に使える力が必要だと感じさせられた。例えば敬語に関してはまだ学習していないが、授業の中で模擬面接を試みたり、いろいろな場面を設定して実際に話	・文法の授業内だけではなく、普段から正しい言葉使いや言い回しなどを教え、言葉を正しく使うことに敏感であるようにする。 ・なるべく多くの、またさまざまなジャンルの文章を読ませ、速く正確に内容を読み取る力をつける。 ・スピーチをしたり、文章を書く機会を多く与え、自分自身を

社会

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
2・3番の都道府県や世界の気候の知識・技能・関心の問題は正解率が70%を超え高かった。ただ、思考・判断・表現の問題は40%を下回った。また、特に身近な地域の問題の7・8番の正答率が低かった。「情報を読み取る」、「比較・関連を読みとる」、「理由を理解し解決する」といった応用力が定着していないことが分かった	関心・意欲を持たせ、知識・技能を身に付けさせながら、思考力を高め、知識や技能を応用して自ら判断する時間をとる必要があると痛感した。授業で学習した知識や技能を活用できる時間を授業内に設けていきたい。少人数での話し合いを通じて、他の意見も参考にした自分の考えをまとめる機会を設けていきたい	例えば授業のまとめの時間として、単元ごとに課題を出題し、少人数での話し合いや意見交換をさせていきたい。その中で、問題解決に向けて思考し、他の意見や考えに対して自らの考えを思考・判断する機会を定期的に設ける。継続的に行うことによって、知識や技能を使った応用力を身に付けさせていきたい

数学

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
問題をよく読んでいない生徒が多かった。また、グラフをかく問題ではグラフをかけている生徒が多数いたが、変域にまで配慮してかいていないために、誤答となっている生徒が多かった。度数分布表から相対度数・平均値・最小値を比較する問題についても知識・理解が定着していないことがわかった	学習した内容が関連して問題に活用できていないため、グラフの変域の問題ができていなかった。関連して活用できるように授業を改善していく。また、問題できかれていること、答える内容を授業の中でもアンダーラインなどを引かせるなどしてしっかり確認をしていく。	例えばグラフの問題ではグラフの変域を考えないでかき、生徒に本当にこのグラフでよいか考えさせるなど自分で間違いに気付かせるような授業を多く取り入れていく。また、問題解決型の学習についても多く取り入れていく。

理科

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
東京都との比較を行うと、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」がともに都の平均を上回った。特に、思考は4ポイント上回っていた。「技能」「知識・理解」は都の平均を下回っていた。技能は、8ポイントも下回っていた。質量と体積や光の問題を苦手とする傾向にある。	実験を多く行っているが、実験の目的や器具の扱いについて苦手な生徒が多い。実験の目的からなぜその器具を使うかを理解させていきたい。知識・理解は、小テストを繰り返し行い、知識の定着を図っていく。	器具の扱いや実験の目的をより明確にして指導していく。「実験してわかる」と答えた生徒が多かったので、今後も実験を多く取り入れていきたい。小テストを行い、知識の定着を図る。苦手な範囲は繰り返し問題演習を行い、知識を定着させていく。

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
1, 2番のリスニング問題と、9番の英作文による「関心・意欲・態度」を測る問題の正答率はある程度高い。6番の質問に対して2文で答える箇所では2文目の間違いが多く見られた。10番、11番の長文問題に関しては、英文を読み進めること、情報を正しく読み取ることができず、誤答及び空欄が多く見られた	単語や英文の綴りの間違いが見られたので、文法事項の解説とともに、「書く」練習の時間を確保する必要がある。また、英文を読むことに対して前向きに取り組み、必要な情報を取り出すことができるように、多くの長文に触れていくことが課題である。	・単語テスト、基本文テストを各単元ごとに実施し、定着が不十分な場合は、補充する時間を確保する。 ・帯活動として、決められた質問に回答する練習を行う。 ・物語、表や図を含む英文等、まとまった文を読む練習を取り入れる。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>昨年までも常用漢字の漢字10問テストを授業ごとに行い、3年次までにそれなりの成果を出してきた。今年も毎時間実施しているがなかなか点数が伸びてこない。書写を除いて3時間という時間のなかで、30問のまとめテストができないことも定着不足につながっている。今回の調査では話を聞き取る力がとても低かったのだが、年に2回定期考査の時に聞き取りテストを行っているだけなので、もっと回数を増やす必要があると思われる。</p>	<p>漢字の読み書きについては、10問テストを10回行った後に30問か50問のまとめテストを行う。これには時間の確保が必要だが、授業時間外の総合の時間などに取れるようなら行う。また、聞き取りテストは定期考査のみではなく、学期に最低2回は行うこととする。説明文や文学的文章を読み取る際の注意事項など、具体的な読解の方法も折に触れて授業内に取り上げていく。</p>	<p>調査の結果にも表れているが、作文の力は目標値や北区の平均正答率を上回っている。なかなか時間が割けないが、自分の考えを文章にしたり、新聞記事の感想を書いたり、説明文の要点をまとめるなどこまめに文章を作る習慣をつけさせたい。また、自分の考えをスピーチしたり、話し合いをする機会も学期に1回は作る。</p>
2年	<p>漢字に関しては1年次から漢字のテキストを使い、定期的に課題を出し、その後テスト、再テストという形で行ってきた。それを年間5回というペースでやってきたが、もう少し回数を増やしたり、工夫が必要かもしれない。また授業の始まりに毎時間5～6問の漢字の復習をしているが、それは授業のスタイルとしても定着してきているので、今後も続けていきたい。とにかくこれだけははっきりと課題が見えてきているので、漢字力をアップさせる方法を早急に考えていくことが必要である。</p>	<p>教科書の新出漢字については、その教材に入った時に表にまとめさせている。その際、必ず机間巡視をし、間違っただけを書き直しているか一人ひとり確認している。あとはそのまま定期考査の範囲にしているが、今後は考査の前に小テストなどを行えたらと思う。授業前の漢字学習も今まで通り行い、より徹底させたい。また読み取りや書くことについても今の成績に満足することなく、授業の中で意識的に、また繰り返し行うことで、更に力を確かなものにしていく。</p>	<p>現在、校内で漢字検定を年3回行っている。授業で学ぶ漢字以外にも知識を得ることができ、生徒たちにとってはいい目標になっているようだ。また読み取りの力が伸びた背景には、毎週1回行っているNIEがあると考えられる。10分ほどの時間で新聞記事を読み、自分の感想を書いていく。読む力だけではなく、書く力も確実につくと思うので、今後も続けていきたいものの一つである。</p>
3年	<p>聞くテストは、一年次より実施しており、よく慣れ親しんでいて、成績も学年を、追って、向上傾向である。また資料を駆使して、考え表現できることは、その能力の育成が十分であることを示している。また、事務的な手紙の文章の読み取りには実力があるが、より深く心理等を複雑に推し量る力が、不足している。漢字力においては、小学生・中学入学後からの基礎的な読み書きの力が不足している。</p>	<p>課題を分析して、漢字においては練習問題を増やして、小学生の5・6年次からの復習用の問題240問を1学期に配布したうえで、9月に50問テストをする予告をした。漢字練習帳を年間を通して使用しており、定期考査でその習得を図っている(3年間継続)文学的文章が教科書からどんどん消えていく社会情勢が、文学的文章を読み解き、人間関係の複雑なやり取りの中から、自分の人生観を高めるいわゆる疑似体験から学ぶ機会を大人が奪った現状を大人社会が反省しつつ、文学教材の教材開発と学ぶ機会を増やすことが緊急の改善策である。</p>	<p>平成26年9月に予定された通り、小5・6の50問テストを実施する。他校から実施してきた「書き・読み」の「誤答例」をもとにテスト後の「傾向と対策」を一人一人実施させて、漢字への注目度を深めさせる計画がある。8次分の弱点をそれぞれ自覚させる。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>地理分野においては、資料の読み取りや知識の定着を図る指導が十分行われきていると思われるが、内容によって差がある。また、基本的な知識の定着が不十分と思われる。歴史分野においては、資料の読み取りや知識の定着を図る指導が十分行われてきたと思われる。</p>	<p>地理分野において、資料の読み取りやグラフ、表などの作成などを授業に十分取り入れて、基本的な技能の習得を図る。 歴史分野においては資料の読み取りと用語の定着を図るようなまとめや繰り返しの時間を取る。</p>	<p>教科書のまとめの章などを活用して、地理用語、歴史用語の知識の定着を図れるようにする。 ワークシートなどを通して、グラフや地図、主題図の作成の練習を行い、また読み取る力の向上を図る。 資料や地図などを活用して、説明したり、表現したりする授業を取り入れ、技能の習得を図る。</p>
2年	<p>地理的分野においては、基礎的な知識の定着が図られている。地図や資料・グラフなどに興味を持ち、自ら学習しようという関心・意欲に課題がある。 歴史的分野においても、知識を習得するだけでなく、大きな歴史の流れに関心を持ち、自らの考えを表現する時間を継続的に持つ必要がある。</p>	<p>地理的分野では、映像や地図帳・資料・グラフなどを多く使うことで、自然に興味や関心を持たせる教材研究を行い、授業に取り入れる。自分が持っている知識を利用し自ら分析、表現することで関心や意欲を引き出せるような授業展開を行う。 歴史的分野においては、人物や歴史的事象を身近に感じさせるために、視覚的な教材を用意し関心を持たせる。自分の考えを表現する時間も継続的に確保する。</p>	<p>授業ごとに、復習プリントを行うことで基礎的な知識の定着を図る。復習プリントの内容には、知識の定着だけでなく自分の考えをまとめさせる工夫を取り入れる。 授業のまとめとして、映像を使った教材を用意することで、復習の時間を取り入れる。</p>
3年	<p>地理的分野においては、1年次より関心・意欲が高く、知識・理解の力についてはきたが、資料からの読み取る力がまだ不十分であり、さらに向上させる必要がある。 歴史的分野においては、1年次から関心・意欲が比較的強く、思考・判断・表現、技能、知識・理解へ影響している。今年度より、単元ごとに復習学習を行っているが、まだ定着が図られておらず、成果は出ていない。</p>	<p>地理的分野においては、基本的な地名・用語の復習をおこない基礎的な知識を確かなものとさせる。以前から、雨温図から読み取る力が不十分であり、それも含め資料から読み取る力を高める指導を実施する。 歴史的分野においては、年表などを活用して基本的な歴史の流れを再度確認させ、その時代の特徴を捉えられるように基礎をしっかりと固める。また資料から読み取る指導をおこなうことで自分の言葉で説明できる力を向上させる。</p>	<p>公民の授業を通じて、地理・歴史に関わる分野を多く触れ、知識の定着化を図る。 復習問題を通して、自分の弱い分野を認識し、その点を重点的に学習し身に付けさせる。 地理・歴史・公民の複合問題を実施して、知識の定着化を図る。</p>



指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（数 学）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>数量分野においては、小学校での数学に対する基礎・基本は定着している。しかし、小数や百分率など整数よりも細かい数に対する苦手意識をもつ生徒が多い。また、計算の式を面倒くさがる生徒がいるという現状がある。そこで、毎授業での復習や单元ごとのまとめなどを徹底していく必要がある。</p> <p>図形分野においては、学力調査の結果の通り苦手意識をもつ生徒が多い。そこで既習事項を復習しながら、中学数学へつなげていけるよう配慮する必要がある。</p>	<p>数量分野においては、授業開始時の前時の学習内容の確認テストを実施し、基礎基本の計算の定着を図る。また、グループ学習や、自分の考えを発表をする時間を設けることで、表現力を身に付けさせる。習熟度別ではない少人数授業なので個々に応じた補助教材を用意し授業を展開していく。図形分野においては、TTにより授業を行っているのでより個別対応を重視していく。実際に模型や表、グラフを用いて授業を行い視覚的に学習できるよう展開し、思考力・判断力</p>	<p>授業の中で、ノートのとり方や数の表記の方法などを確認し、ノートを見返したときに授業内容が理解できるように指導していく。また、今後は途中の式をかくことが重要になるため問題を解く際に解答のみをかいて終わってしまう生徒への指導を行う。また、学力パワーアップ講師との連携を取り、授業の展開や生徒の対応をしていく。そして、今後実施していくスクラムサポートの講師と生徒の理解度を確認し、生徒の学習効果・学習意欲を向上させていく。</p>
2年	<p>少人数授業ではなく一斉授業で行うために、数学を苦手としている生徒に合わせ、授業を行っている。理解が進まない生徒に合わせ授業を行うと授業がなかなか進まなくなってしまうこともある。そのため問題演習を行う時間が多く取れていない。問題演習の部分については宿題で補っているが、自分で学習を進めることができている生徒もいる。繰り返し問題演習を行わないために学習の定着ができていない。</p>	<p>問題解決型の授業を単元の導入など多く取り入れ、自ら学習する意欲を高めていく。</p> <p>教員が苦手な生徒、多数に対応するのではなく、周りの生徒で教えあう授業を多く取り入れていく。問題演習についても副教材を活用し、宿題や小テストを多く取り入れ、定着を確認していく。また、单元テストを单元が終わるごとに行い、さらに定着を図っていく。</p>	<p>夏休みや冬休みなど長期の休みなどを利用して、副教材などのやった問題の復習を宿題にする。そのようにして繰り返し学習する学習方法を指導していく。</p> <p>小テストを活用し、学習の理解が進んでいない生徒に対して、放課後などを活用し、学習指導を行う。</p> <p>問題演習の時間では2段階の問題を用意し、問題ができた生徒に対してはさらに次の問題に進めるように工夫し、理解が早い生徒も自分で学習を進められるような工夫をしていく。</p>
3年	<p>学年が上がるごとに学力差が広がり、数学に対する得意、不得意の意識が広がってきている。毎時間の授業の中で全員が取り組める内容を取り入れたり、興味関心を持てるような教材の開発と授業展開が必要である。特に苦手意識の強い生徒や理解の遅い生徒については個別指導の機会を作り出したり、お互いに教え合ったりすることが効果をあげられると思われる。また、日々の授業の中で、反復練習を取り入れた小テストや机間指導の中での声かけを意識的に行っていく必要がある。</p>	<p>基礎力の定着を図るために小テストを多く行い、反復学習をすることにより、計算力の向上、定着を図る。また、課題解決型の授業を引き続き取り入れ、積極的に課題に向き合う姿勢を育てる。その際、グループの規模を考え、自由な発想と意見交流を通して、数学的な思考を高め、考えを深めさせたい。併せて発表する力、表現する力、聴く力の向上も目指す。单元終了の章の問題等は理解が進んでいる生徒を中心に小グループで学習を進めていく授業形態も考えたい。</p>	<p>授業内での小テストにより、個々の力の把握に努め、個別指導の必要な生徒については机間指導の中で補充を心がける。また、学力パワーアップ講師と連携し、授業内での対応を確認する。理解の早い生徒には単元の系統性を説明したり、家庭学習課題の例を挙げたり、数学検定も視野に入れた学習を考えさせる。放課後の補充として、スクラムサポート講師と生徒の理解度について認識を深め、学習効果をあげる。長期休業の課題を検討し、学力の定着を図る。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>基礎と活用ともに目標値を下回っており、区平均とほとんど変わらない結果となった。内容を見ると「植物のつくりやはたらき」「大地のつくりと変化」といった2分野の範囲が目標値から大きく下回っていた。観点別にみると自然事象についての知識・理解が低く基礎・基本の定着を今後一番の課題とし授業を進めていくことが重要である。</p>	<p>基礎・基本を定着させるために前時の振り返りや小テストを行う。また既習事項をつかって問題を解くような学習課題を増やしていく。 理科に対する興味・関心を持たせるために実物を多く提示し、実験・観察など体験的な活動を増やす。</p>	<p>学習課題を提示する中で、自分の考えを書いたり、考えを他の生徒に発表させたりして言語活動の充実を図るような授業形式をとっていく。また一斉指導だけでなく小集団(班やグループ)をつくり小集団での予想、実験、結果、考察などまとめさせ理科に必要な技能や表現力、知識・理解等をさらに深めさせていく。</p>
2年	<p>基礎的な知識が定着していない部分がある。特に、「大地の成り立ちと変化」に関する知識が不足している。 実験で繰り返し扱った気体の性質、物質の状態変化や凸レンズと焦点の関係に関しては、区の目標値と全国の正答率を10～15ポイント程度上回っていた。東京都との比較を行うと、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」がともに都の平均を上回った。特に、思考は4ポイント上回っていた。「技能」「知識・理解」は都の平均を下回っていた。技能は、8ポイントも下回っている。</p>	<p>実験を多く行っているが、実験の目的の理解や器具の扱いについて苦手な生徒が多い。実験の目的からなぜその器具を使うかを理解させていきたい。 知識・理解は、小テストを繰り返し行い、知識の定着を図っていく。 特に、苦手な生徒が多い「大地の成り立ちと変化」や「光」「物質の密度」などは、重点的に復習を行う。</p>	<p>器具の扱いや実験の目的をより明確にして指導していく。都の意識調査では、理科は「実験してわかる」と答えた生徒が多かったので、今後も実験を多く取り入れていきたい。 小テストを行い、知識の定着を図る。苦手な範囲は繰り返し問題演習を行い、知識を定着させていく。 年度の終わりには、1、2学年の復習のテストを行い、できなかったところを繰り返し復習する。</p>
3年	<p>基礎と活用を比較すると、活用が基礎よりも17ポイント低い。また、内容別では、動物分野が取り組み不足であることがわかる。このことから、基礎的内容を押さえるとともに、応用的な内容も授業に取り入れる必要がある。また、単元ごとの復習は、まんべんなく行っていく必要がある。学力格差が大きい中で、どうしても基礎的内容が中心になってしまいがちだが、基礎的内容を使いながらも思考を高める取り組みが必要である。</p>	<p>授業の中で、基礎的な内容を活用しながら、応用的な内容も考えていく機会を増やす。授業の課題に特に前時の内容を踏まえながら思考していく課題の設定に工夫する。生徒同士の意見を大事にしながら、課題解決を図っていく授業の流れを再構築していく。特に、人の意見を聞きながら自分を意見を深めていけるように、授業を進めていきたいと考える。また、単元が終了するごとにまとめのテストなどを取り組み、知識の定着と、応用問題の演習を行っていきたい。</p>	<p>一人一人の学力を向上するために、グループでの取り組みを取り組んでいきたい。教え合い学習の中で、ミニ先生が指導援助する場面を増やしていきたい。教わる側の生徒も教え合いの中で、問題解決の手はずを身につけてもらいたい。また、長期休業などで、質問教室で個別対応もはかりたい。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（英 語）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>生徒一人一人が積極的に授業に参加できるように工夫し生徒の関心・意欲を高める必要がある。音声指導に力を入れるとともに、文字を使って、書くこと・読むことへ発展的につなげていく指導をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す力を伸ばすため、暗唱テストやコミュニケーション活動を継続的に行う。また、ALTとの授業を活用する。</li> <li>・ワークシートやノート等を活用し、文字や文章の表現力を伸ばす。</li> <li>・文法・文章の理解・定着のため、繰り返し行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストによるフィードバックを行い、必要に応じて、再テスト等を行う。</li> <li>・補助資料を作成し、生徒の言語活動の定着・発展を図る。</li> </ul>
2年	<p>「書くこと」、「長文の読み取り」の正答率が他に比べて低い。語彙の知識・理解を深め、場面に応じて表現することができるよう「書く能力」を伸ばす工夫が必要である。「読み取る力」については、英文だけでなく表や図を伴う資料から情報を引き出し、長文の内容に関する質問に英語で答えることができるようにすることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す」「書く」活動を繰り返し行い、語彙の知識・理解を定着させる。</li> <li>・「長文の読み取り」ができていないため、物語等のまとまった英文に触れる機会を確保し、情報を読み取る力を身につけさせる。</li> <li>・場面に応じて英文で表現することができるように、話されている場所や状況の設定を明確にし、必然性のある会話を行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語テスト、基本文テストを各单元ごとに実施し、定着が不十分な場合は、補充する時間を確保する。</li> <li>・帯活動として、決められた質問に回答する練習を行う。</li> <li>・物語、表や図を含む英文等の長文を読み、情報を取り出す練習を取り入れる。</li> </ul>
3年	<p>全国平均正答率と比較すると、基礎、活用ともに8～9%上回っている。領域別に見ても7～10%上回っており、日ごろの授業がある程度学力の向上に結びついていることが感じられる。特に書くことに関してはディクテーションや英作文課題に取り組んできたことが成果として表れていると感じる。ただし場面に応じて書く英作文では0.7ポイント全国平均正答率を下回っているため、場面を判断する読解力と、状況に応じた会話力、表現力を向上させる必要がある。</p>	<p>現在、ALTとの授業の中で英語の会話を聞いて場面の状況を推測させることや場面に応じて生徒自身に独自の質問や返答を考えさせることを指導している。この指導を継続し、より多くの場面に触れさせるようにしていく。ただし、時には生徒が考える十分な時間を取らずに即興で応答する瞬発力を鍛えていく必要もある。したがって、生徒同士や生徒対教師でトピックについて自由に会話する時間や、その会話を文で書き再現する時間を確保していきたい。</p>	<p>英作文で力を発揮できない生徒には単語が書けない、単語の意味が分からないという単語力の問題と、言葉の並べ方が分からないという語順の問題が大きいと感じている。単語力に関しては教科書の音読とともに、単語テストへ向けた練習の機会を十分に確保し、英作文をするときにはチャンクに分け、語順を意識させる指導をしていく。</p> <p>また、発展的な生徒には、接続詞等を用いて複文にしたり、情報を追加させていくことなどを通して、より長い文章を作ることができるように指導していく。</p>